

第三部 調査結果の要約

1. 単純な要約

(1) 回答者個人の特性

性別で見ると、回答者は、男性が52%とやや高く、年齢は、55歳から64歳が48%、65歳から74歳が36%、75歳以上16%で、やや中高年層にかたよっている。年齢別分布には男女差がみられない。学歴は、同年代の県平均と比べると高くなっている。また、健康に関するセルフイメージ（自己評価）では、「良い」「良くない」は合わせて16%程度で、「まあ良い」「普通」「あまり良くない」の中間的な回答が8割強に及んでいる。ただ、「持病がある」は、66%に上り、月1回通院も8割に達している。

仕事をみると、中高年層では「無職」が26%にすぎないが、老年前期層では57%、老年後期層では64%と、加齢とともに有職者の割合が低下している。就労理由は「生活のため」が74%（うち「働かないと生活できない」が47%）と高く、老年前期（65%）、老年後期（71%）でも差がみられない。他方、働いていない人の理由は、「高齢のため」「体調が良くない」が6割弱で、「自由な時間がほしい」「働く必要がない」などの積極的な理由は1割にも達しない。

(2) 日常生活の状況

普段の自由時間の過ごし方をみると、「ラジオ、テレビ、新聞などの見聞き」といった受動的な余暇消費（過ごし方）が77%と圧倒的に高い。2つめは、「趣味・娯楽」と「家庭菜園」で、それぞれ4割弱ある。3つめは人間関係で、「友人との談話」（22%）「家族との団欒」（18%）「孫と遊ぶ」（8%）などとなっているが、それほど高くはない。「何もしないでのんびりと」という行動の消極派も2割弱ある。女性は、「友人との談話」が32%で男性より18ポイント高く、男性は「軽い運動」が26%で女性より10ポイント高い。男性は一人で過ごす傾向がみられ、女性は社交派ということになる。普段の、なにか物事をする時の取り組み方について、意欲的であるかどうかをみると、「意欲的である」79%（うち「極めて意欲的である」19%）で、モラルmoraleは高い。

(3) 生活環境と暮らし向き

現在の住宅が「持ち家」である人は9割を超えている。また、居住年数は、30年以上が76%と高い割合を占めている。主な収入が「年金」である人は52%、仕事の43%を上回っている。また車の運転免許の保有率は全体で75.5%（うち「運転している」68%）、男性90%（同83%）、女性59%（同52%）で、男女差が大きい。

(4) 生活の満足度

現在の生活に「満足している」人は73%（うち「まあ満足」58%）と高い。男性よりも女性の方が、満足度はやや高い。一方、「満足していない」は、全体が26%であるが、55から64歳の中高年層で28%、老年前期層24%、後期老年層24%となっている。中高年層で不満足の高割合がやや高い。

(5) 社会関係（つきあい）：ネットワーク

①近隣でのつきあいを見ると、「親しいつきあいがある」は78%と高い。うちつきあいが密である（「かなり親しいつきあいがある」）人は、2割弱、反対に、つきあいが疎であるもの（つきあいが、「あまり」「全く」ない）も2割弱である。近隣のつきあいが疎であるものは、相対的に若い年齢層は

ど高いとい傾向が見られる。仕事などの時間的な余裕の問題か、あるいは世代的な地域意識の違いによるものと思われる。

②親戚とのつきあいをみると、「親しいつきあいがある」は89%（うち「かなり」（密）は27%）と、近隣よりも10ポイント以上高い。また、こちらも、近隣同様、加齢とともに、割合が高くなっていく傾向が顕著である。やはり、高齢化が進むと親戚とのつきあいが比重を高めていくということである。

③兄弟とのつきあいを見ると、親戚とのつきあい同様、「親しいつきあいがある」が87%と高い割合を占めている。ただ、親戚以上に「かなり親しいつきあいがある」（密）割合が37%と、親戚のつきあいよりも高いことと、年齢に差がないという特徴が見られる。

④友人との付き合いについては、上記の3つとは別に、どのような友人がいるかを聞いた。回答率（そのような友人が「いる」と回答した人の割合）が高かったのは、「相談できる」「生きがいをともしにする」などのかなり信頼できる深いつきあいの友人、「旅行したり、お茶を飲んだり」の親しい友人が、それぞれ24%で、それ以外は、「電話だけ」9%、「儀礼的なつきあい」8%などで、「友人はいない」も8%ある。「相談できる」は女性で、「旅行したりお茶を飲む」「生きがいをともしにする」は男性で高いという特徴がみられる。

（6）社会貢献意識

「あなたは社会の役にたっていると感じているか」どうかという社会貢献意識は、かなり高いといえる。（「感じている」18%、「まあ感じている」41%、併せて59%）性別では、女性よりも男性の方がかなり高い。（男性68%、女性49%）

（7）家事労働などの遂行、分担

①食事：男性は「よくする」16%、「時々する」27%で、合わせても43%であるが、それでもかなりの割合になっているといえる。女性は、同じく、87%、8%である。当然のことかもしれないが男女差が大きい。年齢差はみられない。

②洗濯：食事にほとんど同じ。

③掃除：食事、洗濯に同じであるが、男性の行為率（「よく」17%、「ときどき」41%）が、食事、洗濯に比べて高い。女性は食事よりはやや低い。（「よく」67%、「ときどき」28%）

④家計・財産の管理：女性は掃除とほぼ同じであるが、男性の行為率（同上、32%、28%）は高い。年齢別では、75歳以上でやや低い。

⑤孫の世話：「孫はいない」が4割強ある。男女差はみられない。孫のいる人だけでみると、孫の世話をしているひとは、男性51%（うち「よく」13%）女性68%（うち「よく」27%）で、男女での差がみられる。年齢別では、75歳以上の後期高齢層でやや低い。

⑥親や配偶者の介護：「必要なし」が62%、すなわち、介護を必要として、している人は4割にも上る。介護の必要がある人だけで見ると、全体的には「孫の世話」と同じ傾向

が見られる。男性の行為率は「よく」19%、「ときどき」30%、女性それぞれ42%、26%である。年齢別では行為率（「よく」「ときどき」の計）が、中高年層68%、前期高齢層56%、後期高齢層39%となっている。やはり、夫婦間よりも親の介護が主であるのであろう。

⑦ペットの世話：「ペットはいない」が63%で、男女差はない。世帯単位で飼っていることが多いからであろう。ペットがいる人の行為率は、男性「よく」46%、「ときどき」28%、女性、同66%、11%で、頻度は違うが行為率は、男女差がない。

⑧庭・花壇、菜園の管理：多くの回答者が何らかのかたちでかかわっているいて、行為率は、男性で「よくする」37%、「時々する」35%、女性では、それぞれ53%、29%となっている。これは、「ペットの世話」、「介護」「孫の世話」などのように、そうした「対象がいらない、ない」ケースはなく、様々な家事や家庭管理の仕事の中で、男性はごみ処理に次いで多くのひとがかかわっており、女性でも、いわゆる炊事、洗濯、掃除の3大家事に次いで行為率が高い。年齢差はみられず、いずれの年齢でも行為率は高い。

⑨ごみ処理：ごみ処理は、男性の、女性との家事分担という点では、最も行為率が高い（分担が行われている）と言ってよい。女性の「よく」76%、「ときどき」15%に対し、男性では、それぞれ50%、29%で、合わせて8割である。

全体的な傾向としては、男性も、3大家事でも、「ときどき」も含めて4割程度が行っており、ごみ処理などの間接的なものは8割に達しており、男性の家事等への参加が進んで来ているように思われる。

（8）コミュニティとのかかわり

いわゆるコミュニティとのかかわりの中でも、もっとも基本的なものは、自治会とのかかわりである。かかわりは積極派（39%）と消極派（38%）と、無関係派（23%）に三分されている。男性は、それぞれ46%、34%、20%、女性は、同じく、30%、42%、26%で、男性は積極派が強く、女性は消極派が高く、また無関係派の割合も高い。年齢別では、前期老年層で積極派の割合が高い。（42%）仕事から引退し、また、心身面で、自治会の活動に参加する条件がある年齢層ということができる。

（9）社会参加活動 1 地域の年齢集団（老人クラブ、婦人会等）への参加

「加入なし」が62%を占め、もっとも割合が高い。残りの4割弱の参加者は、積極派（19%）と消極派（18%）にわかれる。地域集団への参加といっても、義務的な意味合いがある自治会とは異なり、どちらかといえば加入が任意的な団体では、やはりかかわりが弱い。とりわけ、女性よりも男性のほうが無加入の割合が高い。男女それぞれの中での、積極派、消極派の割合には大きな差はみられない。年齢を加入要件とする集団なので、やはり年齢差が大きい。中高年層では、積極派13%、無加入72%、前期老年層では、同じく22%、55%、後期老年層でも同じく31%、45%となっている。

（10）社会参加活動 2 団体活動への参加

①加入団体：趣味やスポーツ、教育・文化、生活改善、ボランティアなどの団体、グループ活動への参加は、無加入が49%と半数を占めている。女性で52%とやや高い（男性47%）。回答者全体に占

める回答率（ここでは加入率の意味）をみると、いずれの団体も加入率は2割程度かそれ以下で、あまり高くないが、その中でも、男性型は「生活環境改善の団体」（加入率17%）、「地域の安全管理」（同14%）、女性型は「趣味の団体」（同19%）で、男女共通型は「健康・スポーツの団体」（男性22%、女性23%）である。加入の有無は年齢とは相関しないが、強いて言えば、「生活環境改善の団体」は、74歳以下で、「健康・スポーツの団体」は65歳以上で高いという傾向がみられる。

②活動頻度：活動の頻度にばらつきがある。それだけ、個人的な要因が働いているということである。週1回以上は、男性（32%）よりも、女性で高い（39%）。年齢別では、やはり、仕事から引退していて、健康・体力の心配が少ない中間層（前期老年層）で高い（41%）。

③特に熱心な活動：特に熱心に参加しているのは、女性は、趣味の団体（参加率24%）、男性は、「生活環境改善の団体」（同14%）、「地域の安全管理」（同13%）で、男女共通型は「健康・スポーツの団体」（同、男性28%、女性26%）で、これらは加入団体の傾向と同じである。

◇開始時期：この活動に関する活動歴（キャリア歴）は、概して短い。活動の開始時期は、「退職してから」が、男性41%、女性25%でもっとも多い。「若いころから」（20%）「結婚してから」（10%）など比較的早い時期からの開始は3割程度である。女性の場合は、結婚、育児等での断絶をへて、「子育て終えてから」（11%）「子供が自立してから」（15%）からも、26%ある。育児、子育てなどの負担が、女性の社会参加の阻害要因となっていることが窺える。

年齢別では、「若いころから」「結婚してから」は、65歳以上では12-13%程度であるが、55-64歳層では36%となっており、「退職してから」は、前者では39%であるが後者では46%となっている。年齢が若いほど活動キャリアが長く、また退職を機に新たに社会参加活動を始めるといった傾向が強い。若い年齢層では、65歳以上に比べて、明らかに社会活動への参加意識の違いがあるように思われる。

④団体活動への参加理由（複数回答）

様々な団体での活動への参加理由は、複合的である。回答率の高い順に、「生活に充実感を持たせたい」41%、「健康や体力に自信つける」36%、「社会貢献」23%、「人の役に立ちたい」21%、「自分の経験を生かす」21%、「新しい友人を得たい」19%、「社会の見方を広げたい」18%などである。男性は、「生活に充実感」36%、「健康や体力に自信つける」32%、「社会貢献」32%、「人の役に立ちたい」25%、「社会人として義務だから」22%、「社会の一員であることを感じたい」18%などとなっている。女性は、「生活に充実感」49%、「健康や体力に自信つける」41%、「人の役に立ちたい」15%などである。上位2つは、男女とも共通であるが、女性は、生活、健康などの個人的、利己的な理由に収められていて、他方、男性は、社会的な理由が強いという特徴がみられる。

⑤参加の充実度

活動の充実感は極めて高い。（「非常に充実」25%、「まあ充実」64%）「不明」等を除くと、性差、年齢差も、ほとんど見られない。

⑥活動に参加しない理由（複数回答）

「仕事をしているから」という外的要因が43%と大きい。やはり仕事をしているうちはなかなか、活動と両立しないといえる。次いで多いのが、「なんとなく面倒だから」といった漠然とした理由であり、21.0%であった。「健康に自信がない」も19.4%で比較的高い。そのほか、回答は多様であるが、「活動を知らない」「気軽に参加できるものがない」「活動したいものがない」「なんとなく面倒くさい」「必要な技術、経験がない」「移動の手段がない」などは、改善の余地が大いにあるものである。

男女間において最も差がみられるものは「仕事」であり、男性の方が15.0ポイント高く、「家庭の事情」では、女性の方が11.6ポイント高い。注目すべき点として「75歳以上」における「健康自信なし」の増加であろう。「健康に自信がない」は、加齢に相関して年齢とともに高くなる傾向が見られるが、75歳以上でその高さが際立っている。また、「移動手段がない」も、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

（1 1）どのような活動なら参加したいか（3つ選択：活動に参加していない人）

「参加が自由である活動」が最も多く21.9%、次いで「人間関係が煩わしくない活動」が18.8%、「初心者でも楽しめる」10.7%、「一人でもできる」10.2%、「年齢に関係なく楽しめる」9.4%、「お金がかからない」7.4%などとなっている。これは、「参加しない理由」と表裏一体のものであるが、ちょっとした工夫があれば対応が出来るものばかりである。

男女差は見られない。ただ、年齢別でみると、参加したい活動と年齢との相関はあまり見られないが、「参加が自由である活動」と「初心者でも楽しめる」は、年齢が低い層ほど高い割合を示している。先に見たように、この辺は、世代ごとの価値観の違いが浮き彫りになっている。

（1 2）社会活動などを活発に行うために必要な条件（3つ選択：問37）

活動を活発に行うための条件は多岐にわたっている。「一緒に参加する仲間がいる」40.3%（回答率、以下同じ）、「会費、受講料などの経済的負担が少ない」37.1%、「時間的な融通がきくこと」33.5%、「自分の家の近所で活動できる」32.1%、「活動のための施設や場所が確保されていること」27.4%、「家族の理解があること」19.3%などが、2割以上のひとが挙げた理由である。

女性の方が高い割合を示したものは、「家族の理解」と「近所で活動できる」「経済的負担が少ない」である。男性で高いのは「地域住民の理解」「場所が確保されている」「技術・技能が生かせる」であった。女性の方が家庭や身近な周囲の条件を重視するのに対し、男性は個人や全体（地域社会）の条件を重視しているといえる。

いずれにしても、活動の条件としては、活動者の主体的要件（「技術・技能が生かせる」）は大きくなく、いわゆる活動の環境整備（場所、費用、情報、仲間、時間）が主であるので、改善の余地は大きいといえる。

（1 3）参加してみたい活動（3つ選択：問38）：活動意向は高い

新たな活動への参加希望者は、現在参加している人（5割強）を含めて、9割を超えている。

参加したい活動の内容は、全体では、「健康・スポーツ」「生産・就業の場」の2つが約3割かそれを超えて、際立っている。次いで「趣味」「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」「生活環境改善活動」が続いている。これら以外は、回答率が1割以下である。健康やスポーツ、趣味の活

動への参加希望が高いのは、すでに見た「現在参加している活動」と同じ傾向である。ただ、「生産・就業の場」は、現在活動している人は8%にすぎないが、希望者は3割弱にも達している。特に、一般就労の有職率が低い女性で希望が高い。

また、「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」や「生活環境改善活動」など、どちらかと言えば**地域に密着した活動への希望が高い**という特徴がある。

性別では、男性が5ポイント以上高いのは、「健康・スポーツ」、「生活環境改善活動」「安全管理活動」「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」の4つである。同じく、女性が高いのは「趣味」と、あと一つは、上に見た、「生産・就業活動」である。

年齢とともに「地域を枠組みとした活動」が増加する一方、「健康・スポーツ」「生産・就業」は、「75歳以上」において割合が大幅に減る傾向にある。また、「生産・就業」や「生活環境改善活動」など、比較的体力を要する活動が、加齢とともに参加希望率が低下するのは、やはり体力の問題が挙げられる。しかし、後期高齢期まで高齢者の「生活の質」を高める上で重要な要素である「趣味」までもが、同じような傾向にあるのは、活動そのもの工夫が足らないのではなかろうか。いずれにしても、子育てや、高齢者支援などの、いわゆるボランティア型活動への参加希望は、あまり高くないが、全体的には活動希望意向は高いといえる。

2. 社会参加活動に影響を与えるもの

ここまで、社会参加活動について、その実態を中心に、性別、年齢別の特徴をみてきた。

次に、学歴、居住年数、健康状態、近隣関係、暮らし向き、物事にとりくむ意欲、社会貢献意識（自分は社会の役に立っていると思うか）、生活満足度の8つの変数を任意に取り出し、社会参加活動との相関をみてみた。

（1）地域集団：自治会活動、地域の年齢集団（老人クラブ、女性会など）

上の8つの変数と地域の年齢集団（老人クラブ、婦人会など）との関わりに関するクロス集計の結果を以下に見てみる。学歴と地域活動との間には相関は、まったくみられなかった。

学歴は中高齢者の地域活動への参加を左右する要因ではないと考えられる。それ以外のものは、地位活動と何らかの相関がみられた。

ア.自治会活動

自治会・町内会の活動については、健康要件（健康状態）、地域性あるいは地域要件（居住年数、近隣関係＝つきあい）、生活要件（暮らし向き、生活満足度）、個人の態度（物事にとりくむ意欲）、社会貢献意識（自分は社会の役に立っていると思うか）などのすべてで相関がみられた。そうした要件や条件と、自治会活動の活動への参加の程度とには、一定の法則的な関連性：参加への比例的あるいは反比例的な特徴（「何々であるほど活動への参加率が高くなる」）が見られたということである。そのなかでは、ゆるやかな傾向がみられるのは、健康や、居住年数、暮らし向きなどである。自治会等の活動は、先にも見たように、次に見る地域の年齢集団とは異なり、社会生活上の義務的な要素を含んでいるので、健康などの個人的条件や、地域で長く暮らしているかどうか、あるいは暮らしが厳しいかどうか、といったことには、あまり強くは左右されないのだとも言える。

他方で、自治会や町内会の活動への参加と強い相関が見られたのは、近隣のつきあいと、暮らしの満足度、活動意欲（普段の行動姿勢）、そして社会貢献意識である。これらは、上に見たような客観的な条件や要因ではなく、どちらかと言えば主観的あるいは主体的要因と言って良いものである。近隣のつきあいが密であるほど自治会活動への参加が積極的であるというのは、極めて納得しやすい結果である。

表102 個人の健康状態別地域活動への参加

<表の数字は、表側カテゴリー（たとえば健康状態が「良い」「普通」）別の活動割合%を示す。以下同じ>

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
良い	50.3 (15.0)	21.8	20.3 (7.5)	62.4
まあ良い	50.7 (10.3)	17.9	23.7 (3.8)	58.3
普通	36.1 (4.4)	18.2	19.0 (3.3)	61.4
あまり良くない	32.4 (8.0)	31.5	18.0 (4.5)	64.5
良くない	20.5 (9.1)	54.5	15.9 (2.3)	61.4

表103 居住年数別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
5未満	9.7 (0.0)	58.1	3.2 (0.0)	87.1
5－10年未満	23.1 (0.0)	34.6	11.5 (0.0)	69.2
10－20年未満	25.6 (4.9)	34.1	11.0 (3.7)	73.2
20－30年未満	28.7 (2.8)	24.1	11.1 (3.7)	73.1
30－40年未満	34.3 (8.4)	21.7	19.9 (5.4)	60.8
40年以上	44.9 (9.2)	19.1	22.8 (4.6)	56.6

表104 近隣のつきあい別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
かなり親しい	70.7 (23.0)	106.	41.4 (11.1)	44.7
まあ親しい	39.7 (5.0)	16.2	18.8 (3.0)	57.7
あまりつきあいない	7.5 (0.0)	46.0	1.7 (0.6)	86.2
全然つきあいない	0.0 (0.0)	77.8	0.0 (0.0)	97.8

表105 暮らし向き別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
ゆとりある	47.3 (16.7)	15.0	25.0 (8.3)	61.1
まあゆとりある	36.2 (6.0)	31.1	12.9 (1.7)	67.2
普通	41.3 (6.5)	26.4	21.8 (4.8)	57.2
少し苦しい	37.0 (10.6)	37.3	19.4 (3.2)	63.0
苦しい	26.0 (6.1)	50.5	11.3 (2.6)	73.9

表106 暮らしの満足度別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
満足している	54.0 (16.1)	17.4	27.3 (9.3)	57.1
まあ満足	40.1 (6.9)	20.0	20.2 (3.7)	58.5
あまり満足していない	30.2 (3.8)	24.5	15.4 (1.0)	68.8
満足していない	18.3 (7.0)	56.3	9.8 (2.8)	78.9

表107 活動意欲（普段何事かをするときの姿勢：意欲的に取り組むか）別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
極めて意欲的	54.0 (15.0)	16.0	26.0 (6.5)	56.5
まあ意欲的	42.5 (7.0)	20.1	22.4 (4.3)	59.0
まあ消極的	13.9 (1.6)	32.1	5.9 (1.1)	74.9
非常に消極的	15.5 (10.5)	63.2	0.0 (0.0)	73.7

表108 社会貢献意識（自分は社会の役に立っていると思うか）別地域活動への参加

	自治会活動		地域の年齢集団	
	積極的（うち非常に）	関わっていない	積極的（うち非常に）	入っていない
感じている	59.4 (21.5)	17.4	27.7 (11.8)	58.5
まあ感じている	49.5 (7.7)	13.2	24.6 (3.2)	55.0
あまり感じない	23.0 (1.3)	26.5	13.1 (1.9)	66.1
感じない	2.0 (0.0)	60.6	1.0 (0.0)	83.8

近隣のつきあいが密であれば、日常的に地域の情報も密になり、地域の課題や問題を耳にしたり意見交換したりする機会も多くなり、自治会や住民の役割などについて考えることも多くなり、自然と活動への参加が高まるし、活動への参加の機会が多くなれば、それだけ地域のつきあいも密になると言った循環が見られることになると思われるからである。

また、暮らしの満足度、活動意欲（普段の物事を行うときの行動姿勢）、そして社会貢献意識（自分は社会の役に立っていると思うか）といった主観的あるいは主体的要因が、自治会等の活動への参加に強く作用しているという点も極めて重要である。

イ.地域の年齢集団（老人クラブ、女性会など）

一方、同じ地域参加活動と言っても、老人クラブや女性会（婦人会）などといった地域の年齢集団は、現在は、ほとんどが任意参加であり、加入や活動への参加を縛る社会規範（強制するような社会通念）も存在しない。したがって、こちらはすでに見たように、自治会と比べても、圧倒的に「未加入」者が多いこと、それ自体が大きな課題となっているのである。

こうした地域年齢集団と、先に見た6つの要因との相関をみると、極めて強い相関が見られるのは「近隣のつきあい」のみである。これも、任意集団であると言っても、こうした年齢集団の活動は、自治会と同じく、近隣コミュニティや小地域で活動を行うことも多いので、自治会の活動への参加行動と同じ意味、内容を持っているものと思われる。

さらに、個人の健康状況や居住年数などは、地域の年齢集団での活動とは極めて弱い相関を示すに過

ぎず、自治会活動への参加と強い関連性を示した活動意欲や社会貢献意識も、ここではゆるやかな（弱い）相関をしめしているだけである。地域の年齢集団へ活動への参加が任意であればあるほど、それが、個人にとってどのような参加意義があるのかという点で、次に見る様々な文化・教育、スポーツ、趣味などの余暇、社会活動などの活動への参加問題と共通した内容を含んでいるということを示唆していると思われる。

（２）社会・団体活動編：様々な活動団体への参加と活動状況

上でみた、８つの変数と地域の年齢集団（老人クラブ、婦人会など）との関わりに関するクロス集計と同様に、それらの変数と、個人が任意に参加する活動団体への参加と不参加等の状況について以下に見てみる。

個人が選択する何らかの任意の団体活動に、種類を問わず、何か一つ以上参加しているかどうかということ（「参加全体」と強い、正比例の相関がみられたのは、「近隣の付き合い」、「生活満足度」、「社会貢献意識」も３つであった。なんら相関がみられなかった（無相関）のは「居住年数」である。それ以外の、「学歴」、「暮らし向き」、「健康状態」、「活動意欲」（普段の物事を行うときの行動姿勢）の４つはゆるやかな相関がみられた。

「学歴」をみると、学歴が高いほど参加率が高いのは、「趣味」と「健康・スポーツ」で、「生産・就業」活動は、学歴が低い人ほど高いという傾向を示している。後者のような活動は、主に、農村部での参加割合が高いということと関連しているのではないかと考えられる。

表 109 特定因子と団体活動への参加との相関

	趣味	健康・スポーツ	生産・就業	教育・文化	生活改善	安全管理	高齢者支援	子育て支援	参加全体
学歴	○		●	○					△
居住年数									
近隣の付き合い		○	○	○	○	○	○		◎
暮らし向き	○	○					○		◎
生活満足度	○	○	○						◎
健康状態		△							△
活動意欲	△	△			○	△			△
社会貢献意識		△	○	○	○	○	○		◎

◎強い正比例の相関 ○やや弱い比例相関 ●反比例の相関

「居住年数」についてみると、その地域での高齢者の居住期間が、ここでみている任意の団体活動への参加と一定の傾向的な関連性を持っていないということは、地域の自治会や年齢集団への加入や活動への参加とは明確な相関がみられたのことに、きわめて対照的である。ただ、「近隣のつきあい」でみると、「趣味」と「子育て支援」以外の活動は、近隣の付き合いの強い人ほど、活動への参加率が高いという傾向がみられるが、これは、これらの団体活動への参加自体は、個人の興味や関心にしたがって決められるが、活動そのものは、「地域」での活動として行われるものが多いことを意味していると思われる。その結果、とにかく一つ以上参加している人の割合：参加率（表では「参加全体」）は、近隣の付き合いの強い人ほど高いという結果になっているのである。

「暮らし向き」は、ほとんど地域や社会での役割や義務的の意味をもたない「趣味」や「健康・スポーツ」などで、暮らし向きが良い人ほど高いという傾向がみられる。こうした活動は、やはり生活の「ゆとり」と関連しているのである。次の「生活満足度」も「暮らし向き」とやや似た傾向を示しているが、これは、むしろ、こうした活動に参加していることで生活全体の満足度も高くなるということで、**活動に参加すれば生活満足度が高くなり、満足度が高くなると活動への参加意欲も高まる**といった、**双方向の関係にあるものと考えられる**。

「健康状態」は、健康と直結する「健康・スポーツ」は健康な人ほど参加率が高いという弱い傾向がみられたが、全体としては、明らかに「良くない」人は参加率が7割と極端に高いが、ここでみたような団体活動への参加状況とはゆるやかな相関がみられるにとどまっている。多少、**健康に問題があっても、ここであげられているような活動は、中高齢者の生活の質（QOL）を保つ上では、不可欠であることを物語っている**といつてよいであろう。

「活動意欲」（普段の物事を行うときの行動姿勢：何事にも意欲的、積極的であるかどうか）は、環境美化やまちづくりなど「生活環境改善」の団体への参加と強い相関が、「趣味」、「健康・スポーツ」とは弱い相関がみられるが、全体的には強いものではない。むしろ、同じ個人の意識でも、「社会貢献意識」（自分は社会の役に立っていると思うかどうか）のほうが、「趣味」や「健康・スポーツ」などを除いた多くの活動で、社会の役に立っていると思っている人ほど、参加率が高く、活動全体でも強い正の相関がみられる。ここでみている社会活動は、まさに「社会的」な意味をもった活動であり、自分が社会的な役割を担い、そのことで評価されたり、役に立っているとの自己認識が高まることで、さらに活動への参加意欲も高まるということである。それ故、自治会や老人クラブ、女性会など地域の団体活動だけでなく、こうした、参加が任意的で多様な社会活動の、社会的な役割や意義を確認し、中高齢者だけでなく、社会が全体として共有していくことが重要といえる。